

県政の課題 識者に聞く 障害者雇用

自立へ向け支援充実を



障害者が働ける場をつくらうと、1999年に「社会福祉法人 上州水土舎」を設立し、贈答用のハムやソーセイジを製造しています。現在、知的障害者10人が働き、西武百貨店や高島屋などの通販で販売しています。これまで、偏見が怖くて、障害者が製造していることを隠してきました。

社会福祉法人 上州水土舎 金谷透理事長

かし、来年からは食品表になってきたと実感しました。示法によって、「製造元」

た。

として社会福祉法人の 障害者雇用という、名前を表示することが 雇用率といった「数」に義務づけられます。取引 気をとられがちです。で

が打ち切られるのでは も、障害者にとって一番

ないかと不安もありまし 大事なことは「居心地の

たが、意外にも取引先 良い職場かどうかです。

は自然と受け入れてくれ 障害者は社会的に孤立し

ました。この数十年で、 やすい存在です。障害者

障害者への差別がなく を不当に扱い、最低賃金

メモ

国や自治体、民間企業は障害者雇用促進法により職員のうち一定の割合以上の上

障害者を雇うことが義務づけられている。群馬労働局によると、昨年6月1日時点で、県内53の行政機関のうちの機関で法定雇用率(県・市町村2

・5%、県教委2・4%)を下回り、全体で23

5人が不足していた。

を大きく下回る給与で働かせている企業もあります。職場内に、障害者の特性を踏まえて仕事を教える「ジョブコーチ」のよう理解者が必要です。就職後も福祉サービストつながっていることも重要です。

見かけには分からない発達障害を抱える人たちにも目を向けるべきです。年々、障害者年金の判定基準が厳しくなり、福祉の支援が行き届かない人が増えています。地域に根ざし、自立して生きていくための支援を充実させてほしいと思います。

【聞き手・神内亜実】